

大発見!!

今とちがう

「きっぷ」はどうやって

「ICカードへ変わった?



きっぷのたん生!



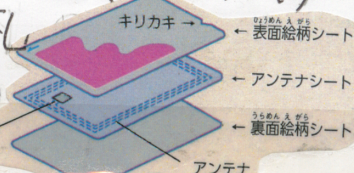
ICカードの登場!!

きっぷは鉄道がたん生した国、イギリスで生まれました。

日本でのきっぷの始まりは1872年(明治5年)9月12日になります。新ばし〜横浜間鉄道が開行式の入場けんが日本初のきっぷだったのです。

日本にはきっぷをつくるきじゅつはなかったため、いんさっきか、用紙などから、か、い、さ、つのはさみまでのすべてをイギリスから取り入れて、きっぷを作っていました。

1990(平成2)年にはきっぷに使われていたしくみが改良され、たくさんのおうほうを記録できるようになりました。2000(平成12)年には、ICカード乗車けんが登場のちに交通ICカードとよばれるようになりました。ICカードの自動改札の仕組みができました。



自動改札しきができる前の改札

昔はえき改札口にはえき員がいて、特別なはさみを使ってきっぷを切っていました。切れ目を、改札すみの印にしたのです。えきごとにちがう形の切れ目なので、切れ目の形を見れば、どのえきからのってきた乗客なのかわかる仕組みでした。



自動改札しきのかいはっ

1965(しゅう和40)年、近き日本鉄道が自動改札しきのかいはっにとりかかりました。そして2年後、当時のけいはんしん急行電鉄の北千里えき(大阪府)で試作しきを取りつけて実けんを行、成功しました。1975年末までに大阪を中心とした地、きに大手私鉄と大阪市えき地下金鉄が自動改札しきをどっ入しました。関東でもその後せちされていきました。

ほかにどんなことか? 便利になったかな

昔はえき員がいて特別なはさみを使ってきっぷを一枚、一枚切っていたので、毎日えきの改札は、こんざつしていました。でも今は、ICカードをかざすだけでとあることができます。さらに、目の不自由な方にとっても、目的地までの運ちゃんなどを調べなくても乗ることができるので便利です。



(今)